愛知東邦大学　シラバス

開講年度(Year)	2023年度	開講期(Semester)	前期
授業科目名(Course name)	教育実習Ⅰ（幼稚園）		
担当者(Instructors)	松本 亜香里,虎岩 朋加	配当年次(Dividend year)	3
単位数(Credits)	4	必修・選択(Required / selection)	選択
			実務家教員科目(Pro teacher course)

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

幼稚園の保育全般に4週間～3週間の期間に参加する教育実践を通して教職意識が向上できる。園児の年齢的発達の特徴・実態を踏まえ、様々な活動場面で適切に幼児と関ることができる。初期の観察実習、中期の部分参加実習を経験した後は研究実習（1日・全日実習）をおこなう。実習前には幼稚園教育要領及び幼児の実態を踏まえた適切な指導案を作成し、保育教材を工夫する等の教育環境を整え実践する。園全体の環境の詳細を理解し、学級担任の役割と職務内容を実地に即して身に付け理解し、大学で学んだ専門的な知識・理論・技術を実践し、基礎を身に付ける。

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	実験・実習
授業の方法(Class method)	実習の形式でおこなう。幼稚園全体のすべての教員（職員）から常に指導を受ける。同時に大学教員（職員）も訪問指導や諸問題には適宜に助言をおこなう。
当該科目と実務との関係(Relationship between cource and practice)	実習生は実習で経験する諸課題についての助言を教員免許を持った担当教員から得ることができる。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	幼稚園の一日の流れと実習生のかかわり ・あいさつ　園内の確認　名前を覚える・覚えてもらう	・観察・参加実習による園生活をつかみ実体験（クラス全体、先生、個々の幼児の動き）を実習日誌に記録する	□
第2回	観察、参加実習による園の役割や園の保育環境の理解 ・「一斉(クラス)活動/主活動」「自由な活動」	・幼児の遊びに参加し、園の特徴を把握した副担任的な参加型の動きをする。・幼児の興味・関心の実際を記録する	□
第3回	観察、参加・参与実習から担任との反省会 ・園生活の理解を深めた実体験(事実)を実習記録へ	・観察から部分参加、参与実習へと移行する。・実習生は疑問・質問が幼児の生活理解と実践になる・クラス全体の遊び傾向や個の興味・関心を理解し、課題や視点を持って観察・記録・計画・実践する。	□
第4回	参加・参与、部分実習による園生活の理解と先生や子ども理解	・先生の言葉かけや関わり方を理解する（尋ね記録する）。・幼児の興味・関心の収集を指導計画案作成へ（1週間目に3案を相談する。	□
第5回	観察から参加、参与、部分の実習へと園全体理解と先生や子ども理解 　園長や担任指導による反省会	・実習目的、課題に対する達成度（子ども、先生の仕事理解）の確認 ・新たな課題は見つけられたか（意見、疑問、質問の整理をする）	□
第6回	部分実習（手遊びと絵本）の体験 　指導計画による知識・技能の確かめ	・中期は部分実習の指導計画を実践し、知識・技能を確かめる ・省察と課題　・大学教員の訪問指導と取り組みの報告	□
第7回	部分実習（昼食の時間、帰りの会）の体験	・部分実習の指導計画を実践し基本的技術（話法・保育形態）を実地に即して身につける。・展開の省察（自己課題追及）と今後の課題（自己分析と先生から改善ヒント）	□
第8回	部分実習（朝の会、昼食の時間）の体験	・指導計画（導入、援助方法、子ども理解）を実地に即して身につける。計画による展開の省察と今後の課題をまとめる。記録整理と自己課題を立てる。	□
第9回	部分実習（帰りの会　例：ペープサート表現15分～20分程度）の体験	・保育内容「表現」と子どもの発達の省察（自己課題追及）と課題（改善ヒントの受容）・まとめの記録整理をする。	□

第10回	部分実習（クラス全体の会　例：造形遊び30分～40分程度）による体験	・保育内容「造形」と環境構成の省察（自己課題追及）と課題（改善ヒントの受容）・まとめの記録整理と明日の保育展開へのつながり	□
第11回	9月実習の一日実習（研究保育実習）体験のために計画する、試す（教材への挑戦）、実践する	・実習内容を総合的に担当の先生と密に検討して計画的に指導案作成をする。	□
第12回	一日実習（研究実習）体験のための①教材と幼児理解の研究　クラス全体の遊びの傾向を記録から探る	・一日実習の指導計画立案は、各自に前もって調べて学習を進めて作成しておき、クラスの実態に合わせて検討した後、指導を受ける	□
第13回	一日実習（研究実習）体験のための②幼児理解の研究　個々のエピソード記録を探る	・一日実習の指導計画立案における個への留意や配慮は、計画書には詳細の記述はしないがデリケートで大切な密案となる。クラスの実態に合わせて個人の対応は思考して練り、指導を受ける	□
第14回	一日実習（研究実習）の体験のための③先生の援助方法の研究　クラス全体と個々へのアプローチ	部分実習そして一日実習の指導計画立案は、幼児の実態を踏まえた適切な指導案を作成し、実践する。	□
第15回	「実習を終えて」園提出 ・実習実践をまとめ自己課の分析・「幼稚園教育実習報告」（大学用）	「実習を終えて」には、園環境（教職員、地域や保護者の人的環境と遊具、資源等の物的環境）、職務内容を振り返り自己課題を追求した実地の学びの自己分析をする。6月実習では大学用の「実習を終えて」、9月実習後は「幼稚園教育実習報告」の整理を行う。	□

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

実習の日の活動を振り返り、メモ書きで書き取った取り組みを実習日誌に記述する。見直し翌日の自己課題を作成する（2時間）。指導担当者からの助言を踏まえ、翌日の実習に備えて新たな課題と実践するための計画を具体的に検討し、実習日誌に書き込む作業を２時間行う。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

課題に対するフィードバックは、実習園の指導教員から、個別指導される。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
知識・技能	◆ 2019子ども発達DP1	幼稚園教員になるための免許と資格に必須の知識と基礎的・実践的な技能を身につけ、活用することができる。
思考力・判断力・表現力	◇ 2019子ども発達DP2	現代の教育・保育の現場に存在する多様な問題や課題に正面から向き合うことができる力強い思考力・判断力を持ち、豊かな表現力を習得でき、発信することができる。
主体性	◇ 2019子ども発達DP3	多様な人々の中で自己を理解し、主体的に他者と協同して問題を解決することができる。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験（in-class exam)	その他(Other)
				100%

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

①実習園の評価：態度/知識・技能（70）
②訪問指導教員の評価や各種提出物：「実習を終えて」「幼稚園実習報告書」、個別面談による実習日誌の評価（30）

■テキスト(Textbooks)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	文部科学省『幼稚園教育要領解説』	
2	文部科学省『幼稚園教育要領』	
3		
4		
5		

■参考図書(references books)		
No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1		
2		
3		
4		
5		